

## 令和 8 年度 県立境特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全安心な環境のもと、子どもを主語にして学びあえる学校</li> <li>◆みんなが子どもの可能性を信じ、学び続ける学校</li> <li>◆保護者・地域の人に開かれ、みんなでつくる学校</li> <li>◆子ども・保護者・地域の人・教職員みんなが Well-Being になる学校</li> </ul>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○計画的な環境整備及び防災学習や訓練、地域の方も参加しての避難所設置訓練、安全な食事指導に向けた研修等を実施し、安全安心な学校作りに向けて意識を向上させることができた。</p> <p>○さかたくインクル協議会では委員による活発な意見交換を行った。相互の授業体験や自立活動の等研修を実施。地域の学校等での授業改善につながった。</p> <p>○学校公開を 3 回実施。授業公開の他、懇談会を実施し、地域の特別支援教育の質の向上を図った。</p> <p>○地域交流活動の運営の仕方について学校運営協議会で積極的な提案を得ることができた。</p> <p>○定期的に各学年でコンプライアンス推進に関する研修を実施。研修資料等も周知し、職員の倫理観・規範意識の向上が見られた</p> <p>○学習場面では一人一台端末を、学習のねらいに合わせて活用し、個別最適な学びを推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●校内の警備体制の充実</li> <li>●地域の方々と連携した安全管理体制の更なる充実。</li> <li>●中長期的なスパンで意図的に児童生徒の資質・能力を確実に育む実践の深</li> <li>●ヒヤリハットの事例報告数が増したが、学部学年によって偏りがある。</li> <li>●情報リテラシーや情報モラルの向上を図る教育の充実</li> </ul>	0 Well-Being をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「ありがとう」「やってみよう」「なんとかなる」「ありのままに」の実践から Well-Being を探究</li> <li>②幸せに働ける心理的安全性のある風通しのよい職場の醸成と、適切なワーク・ライフ・バランスに向けた働き方改革を推進。</li> <li>③大人も子どもも「対話」「主体的な行動」を意識し、認め、挑戦する人を応援する支援。失敗したら「やり直し」ができる環境づくり</li> </ul>	
	I 安全安心な学校作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施設・設備の点検改修による安全安心な環境作り</li> <li>②児童生徒の心身の健康を守る保健安全、食育指導の実践</li> <li>③感染症対策等による持続可能な安全安心な学習環境作り</li> <li>④PTA や地域と連携した大災害時の防災体制の確立</li> </ul>	
	II ニーズに応じた学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①様々な ICT 機器を活用としたアクティブラーニングの実践</li> <li>②自立と社会参加に向けた児童生徒の個別に応じた指導実践（「やりたい」から始まる自立活動）</li> <li>③発達段階に応じた教育課程による小中高一貫性のある実践</li> <li>④体験型学習やデュアルシステム型実習の積極的活用</li> </ul>	
	III 教員の意識向上のための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員全体や個人研修の充実を図り、特別支援教育の専門性を高める</li> <li>②ICT 環境の充実、教材データ化による働き方改革の推進と学習の充実</li> <li>③児童生徒同士の健康や安全を守る</li> <li>④教員のコンプライアンス意識を高める</li> </ul>	
IV 地域の連携とセンター的機能推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域・小中高との交流及び共同学習の推進を深め、コミュニティスクールの充実</li> <li>②地域のセンター的機能としての支援の充実</li> <li>③外部団体や地域資源を活かした P T A 活動の充実</li> <li>④学校教育活動の公開や HP を利用した情報発信</li> </ul>		

	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	○最上位の目的(誰一人取り残さない教育)・目標を了解した、安全安心で主体的に学べる環境づくり	○児童生徒及び教職員、環境面の状況の把握と情報共有。 ○グランドデザインに基づいた、対話による教職員のアイデアを活かした立案。	0 I II III IV		
教職員の 育成及び 指導・監督	○主体的で対話的であることの文化の醸成(学びの相似形)	○研修等での子どもの把握や授業づくりを通して、目的を了解し、職員全員が当事者意識をもち子どもたちが育つ環境について対話を実践。 ○企画会、教務会、学年主任会、学年会、運営委員間、係間連携等活用し、対話にて課題を主体的に解決していく。	0 I II III IV		
対外活動	○Well-Beingを目的にした学校運営協議会、地域連携構築事業等を通じたつくりたい学校・地域の・共有	○さかたくインクル協議会にて今ある状況を知り合い、それを「どうしたいか」熟議することからはじめる。 ○学校運営協議会にてWell-Beingや学校をつくること等について熟議する機会を設け、校内推進委員会にて教職員・保護者・児童生徒・地域の人との共有することを進めていく。 ○ホームページ等で学校の取り組みをグランドデザインとの関連をわかりやすくアウトプット。 ○PTA活動等で保護者や地域の方とみんなで学校づくりをするイメージの共有と当事者意識の涵養。	0 II-④ IV-①②③ ④		
コンプライ アンス確保	○心理的安全性があり、お互い気づいたことを言葉に出せる環境づくり	○笑顔で誰もがありのままに対等に話せる雰囲気普段より自分から心がける。 ○コンプライアンス研修にて人は悪事をしてしまう存在であることを振り返る。 ○職員間での対話をする機会を創出し、学校づくりの当事者意識を高めあう。	0 I II III IV		
働き方 改革	○教職員一人一人がワーク・ライフ・バランスを意識し、タイムマネジメントをしながら生き生きと働ける環境づくり	○衛生委員会等を活用し、職員からの提案に傾聴し、やめられるもの・できるものはすぐに検討・改善する。 ○幸せの4つの要素を意識し、職員間での対話をする機会を創出し、職員主体で職場づくりの意識を高めあう。	0 III-①②④		
ICT活用	○主体的に学ぶためのICT活用(個別最適化:選択肢を増やす)を推進。	○児童生徒一人一人の状況を把握し、効果的活用事例を校内外に発信。 ○校務でのICT活用をできるところから進めて行く	0 II-①② III-①②		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない